

波紋

石原都知「独自ガソリン税導入」
ぶち上げに大ブーイング!

もはやアキレるとしか言えない。東京都の石原慎太郎知事(75)が、期限切れになったガソリン税の暫定税率について、都が独自の課税をして暫定税率分に見合う税収を確保すると

宣言し、全国の知事にも賛同を呼びかける意向を示したのだ。

石原知事は、みずから設立した巨額な赤字を抱える新銀行東京に400億円の追加出資を行い、責任は旧



ゴーマンぶりは一向に収まらな

経営陣になすりつけ、世間から猛反発を浴びたばかり。その直後のこの発言には、さすがに都庁内でも、冷めた空気が漂っている。

「相変わらずの思いつきです。銀行税の時もそうだけど、話題になればいいやと思って、ぶち上げている。何に使うのか用途を明らかにして、どうしても必要だから課税するのならいいが、そもそも一般財源化にも反対している。『地方分権で国とケンカする』とタンカを切りながら、結局、道路特定財源の維持派でしょう。一般財源化を明言しないで、独自課税をするなんて、あまりにふざけた話だと、皆シラケきっています」(都庁職員)

400億円をドブに捨てておいて、暫定税率分の約800億円を課税するといふのだから、確かにひどい。しかも本来なら、何に使うのかを説明したうえで課税すべき話だ。民主党の花輪ともふみ都議も、これは「目的不明税」と指摘する。「東京へのオリンピック招致を国が一生懸命やってくれない。だから、暫定税率の部分も、自分のところの財源になれば、国からもらわなくても潤沢に五輪向けの大規模開発ができるとい

う思いもあるのでしょう。暫定税率分を五輪の大規模開発に使われたら、たまらない話ですよね。石原知事に預けておけなら、まだ国交省に預けておけほうがマシですよ。」

それにしても石原知事はなぜ、こんな芸当ができてしまうのだろうか。

「自分が格好いいと思うのではないでしょう。国から税金をもらうよりも、自分が徴税者になりたい、トップに君臨したいんですよ。石原さんのような人に課税権を持たせたらいったいどうなってしまうのか、怖すぎる」(都庁詰め記者)

本当は、日本の大統領になりたかったのが、それがかなわぬ今……というところか。それにしてもこうした思いつき発言を、周囲はなぜ許してしまうのか。

「やはり、何も言えなくなっているんじゃないですか。裸の王様になっただと、裸の王様になっただと思えます」(前出・記者)

とはいえ、さすがに風当たりの強さを感じたのか、ガソリン税独自課税の発言

以降、石原節のトーンもやや下がってきている。

「東京都に入ってくる暫定税率分は約17円分。約8円分は地方に行っている。都が25円分課税すると、ほかの地方の分まで都が使うことになる。少し冷静に考えれば、なかなかすぐに実現するわけにもいかないのではないのでしょうか」(前出・花輪議員)

思いつきのパフォーマンズで割を食うのはいつも納税者。いいかげんにしてほしいものだ。